

学校生活 ハイライト

同校の学院祭は、生徒が主体となつて、趣向を凝らしたさまざまな取り組みを行う年間行事の一つです。昨年5月に開催された学院祭のスローガンは、COLORS(世界を彩る)です。このスローガンを決定したのは、学院祭の企画や運営を行うために生徒で組織された実行委員会「コミティー」です。

「学院祭は、特定の人だけのものではなく、生徒全員の個性と力を集めて作り上げるもの。COLORS(世界を彩る)には、一人ひとりの個性を發揮する場」という意味を込めました」

と、高3生がスローガンに込めた思いを語ってくれました。

学院祭は2日間にわたり、初日を生徒の日とし、翌日には保護者と一般の方も参加して、学院は大いににぎわいます。講堂では、オーケストラやグリーンクラブ、演劇部が日頃か

私たちの個性と力を見に来てください！ 彩り鮮やかな学院祭の一日

小林聖心女子学院

▶グリーンクラブは、いきものがかりの「ありがとう」や大ヒット映画『タイタニック』のテーマソングなど、鍛え上げた歌声で、誰もが一度は聞いたことのある名曲を披露。透き通る歌声に、惜しみない拍手が贈られた。



講堂で開催したオーケストラは、学院祭の見所のひとつ。『仮面舞踏会』『くるみ割り人形』『アルルの女』など、馴染みのある名曲を披露。「吹奏楽ではなく、オーケストラというのが本学院らしくて素敵。毎年楽しみにしています」(保護者)



◀学院祭のスローガン“COLORS”の横断幕は、中1から高3までの各学年の色を使って描かれている。1923年(大正12年)の設立以来、キリスト教の価値観に基づき、“知性を磨く”“魂を育てる”“実行力を養う”という3つの柱で、一人ひとりの思いや個性を大切に、よりよい社会を築くことに貢献できる賢明な女性を育成してきた同校らしいスローガン。

ら鍛錬してきた演目を披露します。教室や体育館、ホールなどの各施設では、文化部と教科の展示、スピーチ、ワークショップなどがあり、来場者はパンフレットを片手に自由に回ります。どの会場でも生徒たちが案内役として来場者をさっそうとリードしており、その姿からは、「私たちの取り組みを見てほしい」という誇りが伝わってきます。

「学院祭が終わると、私たち高3生は大学受験に向けて気持ちを切り替えます。そういった意味でも、大切な節目の行事だと思っています」と、語ってくれたコミティーの高3生。無事に役割を果たした達成感と、未来への希望に満ちて、その目はキラキラと輝いていました。



▲高校校舎で行われた“お琴体験”。部員の指導で、慣れない手つきでチャレンジする中学生の姿が愛らしい。

◀お茶室では、茶道クラブがお抹茶とお菓子で、訪れた人をもてなした。お茶室での静かなひとときを楽しんだ。



▶体育館では、なぎなた部が凛々しい姿で演舞を披露。「カッコいい」「憧れますね」など、ため息が聞こえる場面も。技が決まると、見学席から拍手が起こった。



▼中学校校舎では、教科展示を開催。書道は、中2から高3の作品を展示。見学者からは「心を落ち着かせて書いていることが伝わってきますね」と、感心の声も。



▲大バーラーでは、各学年から選出された生徒9名が弁論を発表。語学教育に力を入れている同校らしく、5名の生徒が流ちょうな英語で弁論を展開した。

▶美術工芸クラブは、小皿にペイントを施してオリジナル絵皿を作るワークショップを開催。自分で好きな絵を描き、自宅オープンスターを使って焼き付けると、食器として使える。



TOPICS

実行委員会「コミティー」の生徒にインタビューしました

「コミティーは高2と高3の30名で構成されていて、参加は立候補制です。私は、高2のときに企画を担当して、楽しかったので今年も立候補しました。コミティーの活動では、下級生との連絡をスムーズに行うことや、自分の考えを人に伝えることの難しさを実感しました。大変なことが多かったのですが、たくさんの方が見に来て下さり、経験してよかったと思っています」(高3)
「中3の時に、コミティーの人のお世話になったことがあり、今度は私が恩返しをと思い、立候補しました。高2は、先輩のサポート役として、どうすれば皆がスムーズに動けるのかを考えて活動します。来年は高3になり、リーダーとして頑張ることになります。後輩のお手本になれるらうれしいと思います」(高2)



▲ホールでの発表。事前に厳しい審査があり、選ばれた実力派のみが出場できる。K-POPに合わせてプロ級のダンスを披露したグループや、ピアノの弾き語りを披露したコンビもあり、ホールは熱気の渦が巻き起こった。



▲大人気のベビーカステラの販売所には、長い行列が。手際よく振る舞う担当の生徒は、4月に入学したばかりの中学1年生。

